

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475101598
法人名	社会福祉法人 青葉福祉会
事業所名	青葉の風
所在地 (電話番号)	仙台市青葉区荒巻字三居沢1-16 (電話) 022-217-9902
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年1月16日

【情報提供票より】(19年12月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤8人	非常勤0人 常勤換算8.0人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての 1、2、4 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 18,000円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

(4) 利用者の概要(1月7日 現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	72歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関等

協力医療機関名	医療法人岩切病院 北田内科 塚田歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営主体である社会福祉法人青葉福祉会(本部は青葉区本町)は、65年1月に設立され、その後仙台市を中心に幼児保育や社会福祉などの事業に先駆的な役割を果たしてきた。同法人は「乳幼児から終末まで」の理念を掲げ、現在では市内に3か所の保育所と8か所の老人福祉施設などを営んでいる。その中には路上生活者(いわゆるホームレス)などの支援施設「清流ホーム」もある。当ホームは1ユニットの小規模なホームとして、04年4月に広瀬川に架かる牛越橋の上流、山裾と河畔の間に開設された。この法人の歴史が示すように、職員も優れた介護技術を身に付けていたが、この1年間に熟練した職員がそれぞれの個人的な理由で4人退職した。このことによる入居者の心の傷つきを防ぎ得たとはいいがたいが、懸命にサービスの低下の防止に努めてきた後が見えるし、いまなおその努力が続いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改善を要する点として11項目の指摘があったがその多くは改善されている。「地域の人達との交流の促進」については、併設している施設の入居者や近くの保育園の園児たちとの交流が続いている。「身体機能の低下を捕う配慮」については、日常的な外出の支援や、多様なホームの行事への参加などにより防いでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義とねらいについて運営者と職員で話し合い、すべての職員で自己評価に取り組んでいる。改善を要する点として見出された課題である共用タオルの使用の中止、危険な物品の安全な保管管理、入居者の状況を把握しやすい記録の工夫(気づきノート)の作成)、サービスの低下の防止などに取り組んでいる。</p>
	重点項目	<p>②</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は06年11月に発足し、ホームからの事業の報告や施策の提起と、参加者からの意見や要望の聴取により双方向的に運営している。評価機関からの評価結果や行政監査の結果も会議で報告し、改善策についても提起している。会議の構成員は町内会会長、家族会会長、民生委員、地域包括支援センター所長などの他、協力医療機関の医師が関わっているのが特徴的である。この医師から自動体外式除細動器を配備するように提案があり、特養ホームを含めて現在検討中である。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時には、必ず入居者の状況を伝えるとともに、入居者のことについて話し合っている。すべての家族に対して、2ヶ月に1回は手紙で入居者の状況を伝えている。家族の意見や苦情を手紙や来訪時に聞き(ときにはアンケートも活用し)、解決策を検討してサービスの向上に活かしている。入居者の金銭管理については家族と取り決め、出納状況を文書で報告している。家族会があり、家族の宿泊室を用意している。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入している。入居者が保育園や地域社会の行事などに積極的に参加し、隣接する他の施設の納涼大会や敬老式典に招かれて参加したり、日常的にはその施設の方々と「お茶飲みや物々交換」で交流している。ホームの行事に保育園児や学校の生徒が参加している。特養ホームに来るハーモニカや琴のボランティアと一緒に楽しんでいるが、今後はボランティアを増やしたいとしている。今は広報紙の発行はない。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームには「お互いが共感し合い、親身になって接し、信頼し合える関係をつくります」との独自の理念があるが、入居者や地域社会のニーズ、ホームの状況などに応じて毎年見直していない。	○	地域密着型サービスの意義をふまえて、「地域生活の継続」と「地域との関係性の強化」などをうたった理念の検討をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で理念について話し合いを持ち、理念の内容をすべての職員が理解している。日々のサービスの提供に当たっては、その理念を活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは町内会に加入している。入居者が保育園や地域社会の行事などに積極的に参加し、日常的には隣接する他の施設の方々と「お茶飲みや物々交換」で交流している。ホームの行事に保育園児や学校の生徒が参加しているが、「ボランティアの来訪が少ないので増やしたい」としている。今は広報紙を発行していない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて運営者と職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。改善を要する点として見出された共用タオルの使用の中止、すべての手洗い場への石けんの配備、危険な物品の安全な保安全管理、入居者の状況を把握しやすい記録の工夫、サービスの低下の防止などに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は06年11月に発足し、ホームからの事業の報告や施策の提起と、参加者からの意見や要望の聴取により双方向的に運営している。評価機関からの評価結果や行政監査の結果も報告し、改善策についても提起している。委員から自動体外式除細動器を配備するように提案があり、特養ホームを含めて現在検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人として行政担当者に事業への理解と支援を要請しているし、行政側との話し合いや相談の機会を設けている。現在、行政側からの事業の受け入れはない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した時には、入居者と家族が居心地よく過ごせる場所を設定し、必ず入居者の状況を伝えるとともに、入居者のことについて話し合っている。また、すべての家族に対して2ヶ月に1度は手紙で入居者の状況を伝えている。入居者の金銭管理については家族と取り決め、出納状況を書面で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情を手紙や来訪時に聞き(ときにはアンケートも活用し)、その意見や苦情に対しては、発生の原因を探り、解決策を検討してサービスの向上に活かしている。本人や家族が運営推進会議や行政窓口や外部の相談員に、意見や苦情を伝えることができることを説明している。家族会を結成し、家族の宿泊室を用意している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者と職員は基本的には異動しないようにしているが、この1年間で優秀な常勤職員がそれぞれの個人的な理由で4人退職した。職員が退職する場合には引き継ぎ期間をできるだけ長く設定したが、それでも入居者の心の傷つきを避け得たとはいいがたい。「職員の補充が年々難しくなっているので、職員の定着に努める」としている。	○	職員の定着と介護技術の向上のために、なお一層の努力をお願いしたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には日常的に学ぶことを推奨し、会議の都度研修を実施するように務めている。職員が外部の研修会に参加した場合には、すべての職員がその研修内容を共有できるように、報告する機会を作っている。	○	前項に記した4人の常勤職員の退職後、新任職員の研修が十分にできているとは言い難いので、なお一層の努力をお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームは市内の同業者団体に加入し、すべての職員が同業者と交流する機会を設けている。昨年はその完全な実施に困難な面があったが、併設している施設の行事に参加する際も、熟練した職員との接触と交流を通じて連携が図られるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が入居する前に、職員が会いに行ったり、ホームで短時間でも過ごしてもらったり、宿泊入居を体験してもらったりして、本人が職員やサービスに徐々になじみながら、本格的な入居に移っていきけるように支援している。本人やその家族などと十分に話し合いながら、個別に入居の開始時期を調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護度が重くなってきても、その人の「できること」に目を向けて、得意な分野で力を発揮してもらい、職員はそれをねぎらい感謝している。職員は入居者から大切な生活の技や生活文化を教えてもらっている。ホームには屋上庭園があり、入居者が園芸や畑仕事を楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、本人が入居する前に、必ず家庭を訪問して実態調査を実施し、本人の思いや暮らし方、希望や意向(どこで、何を、どのように暮らし、誰に会いたいかなど)の把握に努めている。本人の「現在」や「過去」をよく知っている家族などを交え、本人の視点にたって話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実態調査の際に本人やその家族の思いや意向を聞き、ホーム以外の関係者(医師、看護師、介護支援専門員など)の意見を取り入れ、すべての職員で話し合っており、本人が地域社会のなかでその人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。介護計画を家族に渡し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者が急変した時は必要に応じて入居者とその家族及び関係者と話し合っており、介護計画を見直している。見直しに当たっては前回の介護計画の遂行状況や効果などの評価を記録し、それを踏まえて新しい介護計画に活かしている。見直した介護計画を家族に渡し、同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や特別な外出、外泊などで支援が必要な場合には柔軟に対応し、それぞれが満足を得られるように努力している(通院の場合、ほとんど職員が介添えしている)。近在の高齢者が、ショートステイやデイサービスを希望すれば、併設している特養ホームで対応できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師や医療機関と良好な関係を築き、本人やその家族が希望する医療機関に受診できるように支援している。協力医療機関の医師が毎月1回往診し、緊急時などで相談したいことがあるときは常時連絡がとれる体制がある。今後は歯科医師の回診の機会を設けたいとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重体に陥った場合の対応方針を築きはじめている。ホームで「できないこと」でも、併設している特養ホームの他の職種の職員と連携を取りながら対応できる方法を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者を尊重して呼びかけ、本人の承諾を得たうえで居室に出入りしている。入居者には人前で恥ずかしい思いをさせないように、目立たない言葉で話しかけている。スピーチロック(言葉による抑制)も見られない。個人情報の保護にかかる取り決めがあり、すべての職員がそれを理解し、実行している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活の周期に配慮して、起床、入浴、食事、就寝などの日課的な行為を、本人なりの速さで行えるように柔軟に対処している。一部の入居者だけにサービスが偏らないように、積極的に意思を主張されない入居者の思いの把握に留意し、それぞれの入居者が主人公になって暮せるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力を活かしながら、買い物、調理、食卓の用意や後片付けなどを一緒に行っている。食事には旬の食材や新鮮なもの、入居者の嗜好を取り入れているし、代替食も提供している。食事は和やかな雰囲気、入居者と職員が同じ食卓で同じ食事を摂り職員はさり気なく支援の手を差し延べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴でき、毎日入浴している人がいる。入居者のこれまでの生活習慣や好み希望を聞いて、その人に合った入浴ができるように支援している。夜間入浴は以前から取り入れており、昨年の10月からは夕食時を含めて職員の配置に厚みをもたせた。一般入浴が困難になった人のためにリフト浴を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの入居者が、自分の役割や楽しみごとを持てるように、または気晴らしの機会を作れるように職員が手助けしている。入居者の習慣、希望、有する力、発揮したい力を踏まえて支援している。入居者の主な楽しみごととしては、裁縫、編み物、園芸、折り紙、ぬり絵、書道、将棋などがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者がなじみの店や美容院、法事などに出かけられるように支援している。入居者が歩行が困難になった場合には、車や車いすなどを利用して、戸外に出ることを積極的に働きかけている。昨年の9月には作並温泉のリゾートホテルから昼食付きの無料招待を受け皆で楽しんできた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室に鍵を掛けていない(門扉は建築上自動施錠になっているが、呼び鈴を押せば直ぐに解錠できる)。職員はそれぞれの入居者の外出の癖や傾向をつかんで対応し、近在の方々にも協力を求め、見守りや声かけ、ホームへの連絡を要請している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策に係るマニュアルを作成し、すべての職員に周知している。また、「清流ホーム」の方々などの参加と協力を得ながら、毎年2回以上の合同避難訓練を実施している(夜間想定を含む)。避難通路の安全や消火器、火災報知器などの施設設備を定期的に点検している。尚、職員の非常呼集体制についても確立していただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの入居者の食事と水分の摂取量を記録している。食事の献立は調理士の資格を持っている職員が、入居者の嗜好や栄養バランスを考慮して、2週間分を一括して作成しているが、栄養学の専門職から指導や助言を受けていない。入居者の体重を最低毎月1回は測定している。	○	管理栄養士や保健師から、1ないし3か月に1回は栄養にかかる指導や助言を受けていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を入居者にとって使いやすく造作し、季節が感じられるもの(七夕飾りやクリスマス飾りなど)を置いている。照明や日差しがまぶしかったり暗かったりしていない。適切に換気され、臭気や空気のよどみがない。居室や共用空間などの温度と湿度を適切に管理している。テレビの音が大き過ぎたり、点けばなしにならないように気配りしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族になじみのものを持ってきてくれるように働きかけている。9部屋のうち2つの和室があり、それぞれの入居者が、ベッド、テーブルセット、仏壇、テレビ、こたつなどを持ち込んで、自分に適した居心地のよい居室を作っている。ホームでは照明器具、洗面化粧台、押し入れ、カーテン、冷暖房装置などを提供している。		